

■ **ワークショップの概要**

◆ **目的**

市民の意見を吸い上げ、現在策定中の「第4期草津市地域福祉計画」の施策・事業への反映に資する内容となることをめざしました。

◆ **対象者**

- ・地域福祉や地域活動をしている方
- ・地域福祉に興味・関心のある市民

◆ **実施日程（参加者）**

- 7月13日（月）18:30～ 草津市役所8階 大会議室 （32名）
- 7月14日（火）18:30～ 草津市役所8階 大会議室 （32名）

◆ **運営の手法**

テーマに沿って各テーブルで検討を行いました。各テーブルのリーダーは意見の集約を行い、最後に発表していただきました。

◆ **グループワークの内容**

【1日目】「高齢者、障害者、子ども・子育て、生活困窮者等への支援として共通し 取り組めること」のうち、3つの取組について、特に「互助」と「公助」の視点から検討しました。

【2日目】包括的な支援のうち、3つのシチュエーション（「複合的な課題を抱える家族への支援」、「引きこもりの相談支援」、「参加支援」）の事例を引用して、対応策を検討しました。

◆ **その他**

新型コロナウイルス感染症対策として、参加者を絞った形（40名以下）で実施し、会場設営や運営においてもマスク、アルコール消毒薬、検温器を設置する等、新型コロナの感染予防に努めました。

■ **1日目 各テーブルの成果発表**

■ 「相談支援」（互助の視点から）

- 民生委員の成り手がいない、ボランティアの方もなかなかおらず、また高齢化が進んでいる。
- 人材不足が一番の課題。
- 最近ではプライバシー等、神経質な時代になっているので、隣の方との関係を作るにしてもなかなか難しい。
- 個人情報の関係で、なかなか踏み込んだことができない。
- 決め付けたり、思い込みだったり、先入観を伴うような、一方的にもなりえるような支援というのは当事者からすると望ましいものでなく、受け入れにくいこともあるのではないかと。

- 一番困っているのが民生委員の成り手が少ない、ボランティアの成り手がなく、地域の中で引っ張るリーダーがなかなか出てこない。
- 「相談支援します」という形で開設しても相談に来る方が少ない。

■ 「相談支援」（公助の視点から）

- アウトリーチの充実が必要。
- 相談を窓口で受け付ける職員のレベルを上げないといけない。
- 一方的な好意や善意が相手には迷惑や受け入れがたいこともある。
- 総合的な窓口を作り、相談しやすいよう敷居を下げる。
- 行政に対して相談をしに行くのはハードルが高いが、複雑な相談等に関してはしっかりと受けてほしい。

■ 「見守り」

- 日常の中であいさつ、関係づくりが大切。
- 日常の中で、いつもと少し違う景色に気づくといった視点も必要。
- チームでできることは関係を作った上で、そういう方たちと取り組むという仕組みも必要。
- 個人情報などをどこまで共有し合うのかというルールを決めて、地域全体、行政も含めた関係づくりが必要。

■ 「居場所づくり」

- 地域の中に溶け込めない人や難しい方もいるので、固定のメンバーでそろえず、不特定の方が参加できるような雰囲気作りも大切。
- マッチングアプリも人とつながるツールとして利用できないか。

■ **2日目 各テーブルの成果発表**

■ 「複合的な課題を抱える家族への支援について」

1. この家族にあれば良い、または効果的と思われる支援
 - （父）酒やパチンコをやめて就労等の自立につなげる支援が必要。（息子）障害の認定により就労支援が受けられるかどうか判断する。（娘）本人の希望も傾聴しながら相談ケースワークをしていく。（母）相談員を案内して適切な相談支援につなげていく。（家族全体）家族に対しての支援チームを構成してはどうか。
2. 父、母、息子、娘のそれぞれがめざすべき「幸せ」の状態について
 - （父）依存症の治療。仕事による社会的立場・役割の復活。（息子）自分は何が得意なのかという所を見つけてあげ、居場所あるいはどういった就労につなげるのかを考える。（娘）自分がどのような進路に進むべきなのかという目標を持つ。（母）父・息子・娘のそれぞれの課題が解決し、自立すること。

■ 「ひきこもりの相談支援について」

1. 入院する予定の父に、今後どのような準備や支援が必要か
- 地域の民生委員やボランティア等の支援者を増やすことが必要。

2. 息子にどのように接しどのような支援につなげる必要があるか
- 息子の話をよく聞いて、息子の希望をかなえる方向で支援を行う。

■ 「参加支援について」

1. 娘の状況の改善のため必要な支援
 - 娘の気持ちに寄り添い、就労等、今後のことを一緒に考える。
2. 母が社会とのつながりを回復するため必要な支援
 - 母親の適正にあった仕事を選んでいけるような支援。
 - 若くして母親になった母親自身の生育環境を検証する。

★ **ワークショップの総括**

◆ **1日目**

- ◎地域の状況として、地域のリーダーや地域を支える民生委員・児童委員やボランティアの方のなり手が少なく、支え手が高齢化している。
- ◎個人情報やプライベートな問題等への配慮から、支援が必要と考えられる世帯への関わり方が難しい。
- ◎公的な支援として、アウトリーチの充実や窓口対応の職員等の資質向上、相談しやすい体制づくりが必要。
- ◎地域での日常からのあいさつや声かけから、地域の状況を住民同士で気をつけ、何気ない変化等に気づき、支援につなげる必要がある。
- ◎サロンや居場所等は、どのような方でも参加できる雰囲気やきっかけづくりが必要。

◆ **2日目**

■ 「複合的な課題を抱える家族への支援について」

- ◎家族それぞれの悩みや状態を明確にし、それぞれの思いや意思をしっかりと受け止め、適切な支援やサービスにつなげる必要がある。
 - ◎世帯の悩みや課題については支援チームを結成する等して、家族全体を支える体制を構築することも必要。
- 「ひきこもりの相談支援について」
- ◎高齢の父親の退院後の在宅生活を支えるため、各種保険サービスや地域での支援等を検討することが必要。
 - ◎息子には専門職等が話を聞ける関係性を構築した上で、ひきこもりから脱却できるきっかけづくりを行うことが必要。

■ 「参加支援について」

- ◎娘に寄り添って就労等のことを一緒に考えられる人の存在や、社会での居場所づくりが必要。
- ◎若くして子どもを授かった母親の境遇を勘案しつつ、社会への参加支援として母親の状態や適正に合った就労支援を行うことが必要。